

フラッシュ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

- 警告**
電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この**取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HVL-F1000

Sony Corporation © 2002 Printed in Japan

特長

本機はソニー製のACC端子または**⚡**(フラッシュ) 端子付きデジタルスチルカメラ専用です。暗い場所や、逆光状態でデジタルスチルカメラの撮影をお楽しみいただけます。自動調光機能つきです。

使用上のご注意

- 本機はハンディカムにはご使用できません。
- POWERスイッチのON,OFFを連続して行った場合、誤発光する場合があります。
- 温度の低い場所で使用する場合は、常温時（20℃）に比べて発光回数が減少したり、充電時間が長くなるなど電池の性能が低下しますので、予備の新しい電池を準備されることをおすすめします。ただし、低温のため性能の低下した電池でも常温にもどれば性能は回復します。
- 40℃以上になるような高温の場所に放置したり保管したりしないでください。高温になると内部構造に悪影響があります。（特に夏季の自動車内での置き忘れにご注意ください。）

故障かな？と思ったら

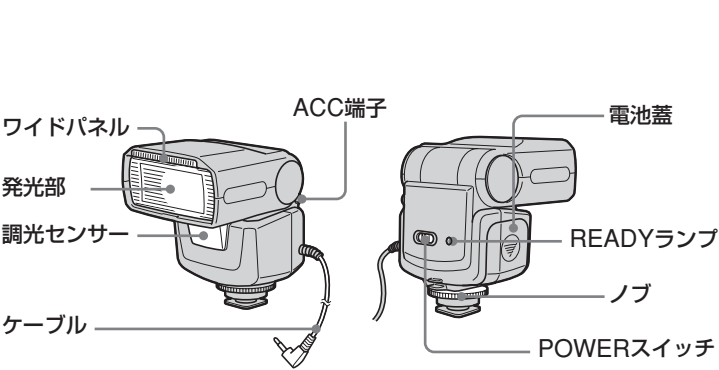
修理にお出しになる前に、もう一度点検してください。それでも正常に動かないときは、ソニーの相談窓口にご相談ください。

こんなときは	つぎのようにしてください。
発光しない	<ul style="list-style-type: none">本機から出ているケーブルが、デジタルスチルカメラのACC端子または⚡(フラッシュ) 端子に確実につながっているか確認してください。 本機のPOWERスイッチがONになっているか確認してください。 デジタルスチルカメラにフロッピーまたは“メモリースティック”が入っているか確認してください。 READYランプがオレンジ色に点灯していない場合は、本取扱説明書のREADYランプについてもう一度参照してください。 被写体が明るい場合でデジタルスチルカメラのフラッシュ表示がAUTO（表示無し）および赤目軽減のときは発光しません。被写体が明るい場合で発光させたいときは、デジタルスチルカメラのフラッシュボタンを押して強制発光にしてください。

お手入れ

フラッシュをデジタルスチルカメラから取りはずし、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布でふいてから、もう一度からぶきしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

各部のなまえ



電池についての安全上のご注意
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

- 警告**
 - 火の中に入れてない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
 - 乾電池は充電しない。
 - 指定された種類の電池を使用する。
 - 古い電池と新しい電池、種類、メーカーの異なる電池は一緒に使わないでください。

- 注意**
 - ⊕と⊖の向きを正しく入れる。
 - 電池を使い切ったとき、長期間使用しないときは、取り出しておく。

もし電池の液が漏れたときは、電池ケース内の漏れた液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

主な仕様

ガイドナンバー	28相当
推奨距離	1～8 m
発光回数	200回以上（20℃にて）
外形寸法	約68×95×92 mm（幅／高さ／奥行き）（最大突起部は含まず）
質量	約190 g
付属品	シューアダプター（1個） <p>ポーチ（1個）</p> <p>印刷物一式</p>

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。くわしくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではフラッシュの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーの相談窓口にご相談ください。ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 品名：HVL-F1000
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、まちがった使いかたをすると、感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

●安全のための注意事項を守る


●故障したら使わずに、ソニーの相談窓口相談する

●万一、異常が起きたら

フラッシュが熱くなる 変なにおい、煙が出た場合は	➡	<ol style="list-style-type: none">フラッシュの電源を切る。 ソニーの相談窓口相談する。
-----------------------------	---	---

警告表示の意味
取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。
警告 この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・事故などにより死亡や大けがなど人身事故になることがあります。
注意 この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。


注意を促す記号	行為を禁止する記号
 感電	 禁止  分解禁止  接触禁止


警告  感電	下記の注意を守らないと、 感電 により大けがの原因となります。
--	--


分解しない


内部には電圧の高い部分があり、分解したりすると感電の原因となります。

内部の点検や部品の交換はソニーの相談窓口にご相談ください。

発光部を人の目に近づけて発光させない	 禁止
強力な光は目を痛める恐れがあります。	

発光部を皮膚や物で覆ったまま発光させない	 禁止
火災ややけどの恐れがあります。	

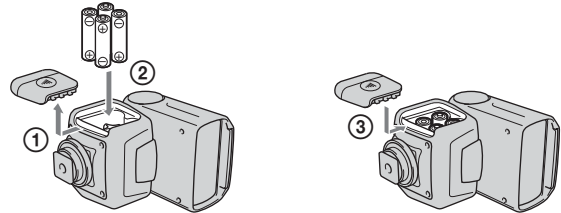
落下などで、外装ケースなどが破損したときは、絶対に露出部分に触れない	 接触禁止
感電の原因となることがあります。	

自動車などの運転中にストロボを操作したり、運転者に向けてストロボを発光させない	 禁止
交通事故の原因となることがあります。	

電池の入れかた

電池はソニー製単3アルカリ電池4本をご使用ください。それ以外では正常に動作しないことがあります。

- 1 電池蓋を開ける。
- 2 電池4本を電池ケース内の表示にしたがって正しく入れる。
- 3 電池蓋を閉じる。

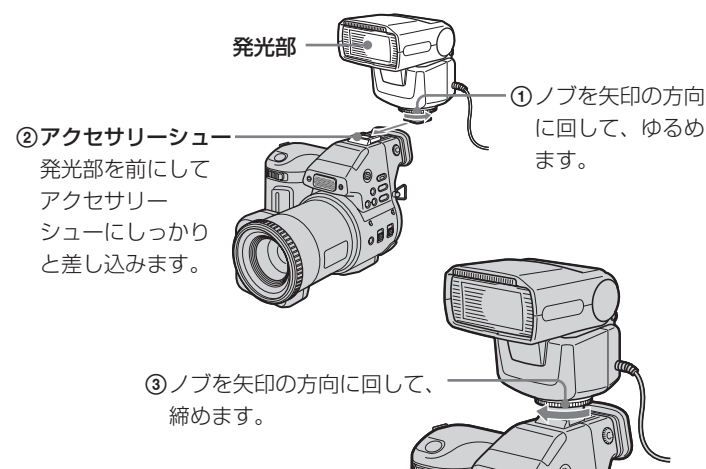


ご注意

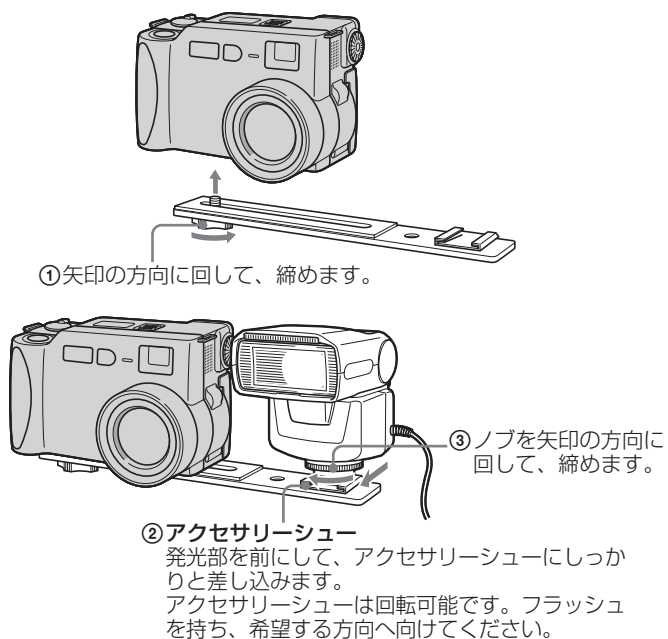
- 電池は必ず4本とも同じ種類のもをご使用ください。
- 電池の⊕⊖は必ず確認して入れてください。誤った入れかたをすると、液漏れや破裂の原因となります。

取り付けかた

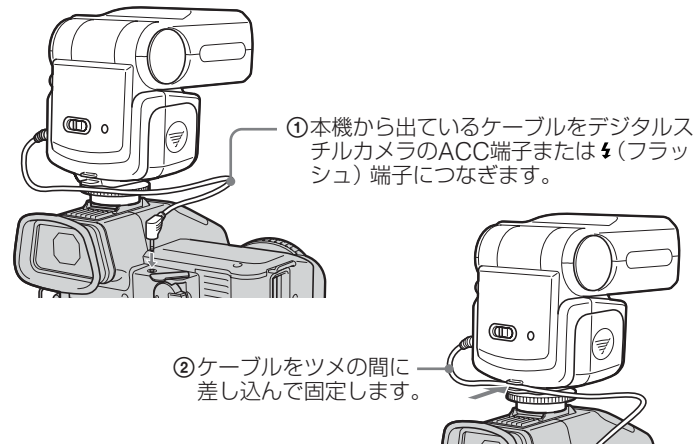
- 1 フラッシュを、デジタルスチルカメラのアクセサリースューに取り付ける。



アクセサリースューのないデジタルスチルカメラをお持ちの方は、付属のシューアダプターをご使用ください。デジタルスチルカメラの三脚用ネジ穴にシューアダプターを取り付けます。

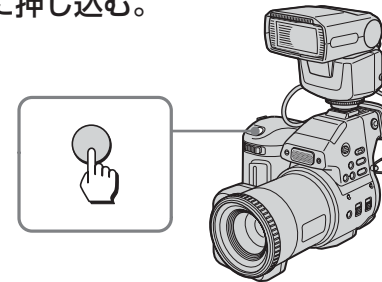


2 ケーブルをつなぐ



- 充電が開始し、READYランプとデジタルスチルカメラのFLASHボタンがオレンジ色の点滅になります。充電には10秒以上かかります。
- 発光可能になると、READYランプとデジタルスチルカメラのFLASHボタンがオレンジ色の点灯に変わります。
- 電池が消耗すると充電時間が長くなります。充電開始から約40秒までに発光可能にならない場合、赤色の点滅になります。電池を新しいものに交換してください。

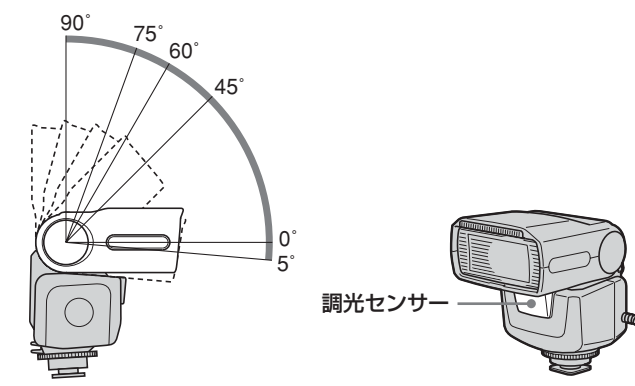
- 5 デジタルスチルカメラを被写体に向け、フォーカスを合わせる。
- 6 デジタルスチルカメラのシャッターボタンを軽く押して、画像を確認する。シャッターボタンをさらに押し込む。



フラッシュがシャッターボタンに連動して発光します。シャッターボタンを離すと、フラッシュは再び充電を始めます。

発光部の回転角度

- 発光部は下方5°から、上方90°まで回転します。下方5°、0°、上方45°、60°、75°、90°のクリック位置で使用ください。
- 下方5°は、撮影距離が2m以内のときに、被写体の下側にフラッシュ光が十分に回るようにするとき使用します。



ご注意

- 本機の推奨距離は約1~8mです。(無段階自動調光式)
- 撮影時、本機の調光センサーを指などでかくさないでください。被写体との距離がわからなくなり、光量を調節できなくなります。

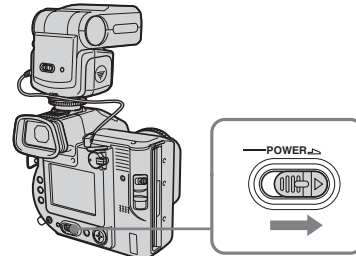
READYランプについて

- オレンジ色の点滅の場合
充電中です。発光できません。
- オレンジ色の点灯の場合
発光します。(デジタルスチルカメラが発光禁止モード、赤目軽減モードまたはオートモードで被写体が明るい場合は発光しません。)
- 赤色の早い点滅の場合
電池が消耗しています。
- 新しい電池と交換してください。(長い間お使いにならなかった場合、最初の充電時間が長くなります。その場合はもう一度POWERスイッチをONにしてください。)
- 赤色の遅い点滅の場合
デジタルスチルカメラとの通信異常です。
- ケーブルを抜き差ししてください。
- READYランプがつかない場合 (POWERスイッチON)
ケーブルがACC端子または⚡(フラッシュ)端子に正しくつながれていません。
- 正しくつないでください。
デジタルスチルカメラのPLAY/STILL/MOVIEスイッチがSTILLモードになっていません。
- STILLモードにしてください。

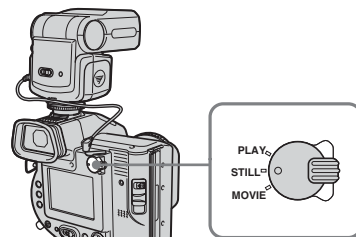
使いかた

この説明書は、アクセサリースュー付きデジタルスチルカメラを例に説明しています。おのおのデジタルスチルカメラの操作について、詳しくはお手持ちのデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

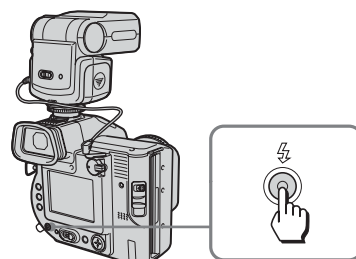
- 1 デジタルスチルカメラのPOWERスイッチを右側にずらして「ON」にする。



- 2 デジタルスチルカメラのPLAY/STILL/MOVIEスイッチを「STILL」にする。(本機はPLAY/MOVIEモードでは動作しません。)

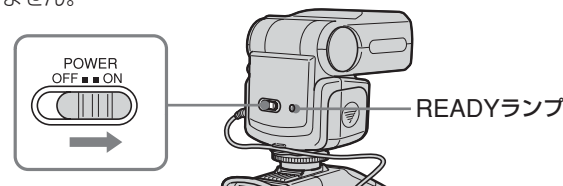


- 3 デジタルスチルカメラのフラッシュボタンを押してフラッシュ表示を出す。



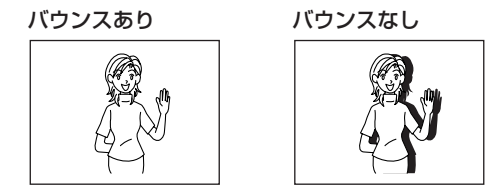
表示はボタンを押すたびに次の順で変わります。
AUTO (表示無し) → 赤目軽減 → 強制発光 → 発光禁止

- 4 フラッシュのPOWERスイッチを「ON」にする。本機とデジタルスチルカメラの内蔵フラッシュは同時に使用することができません。

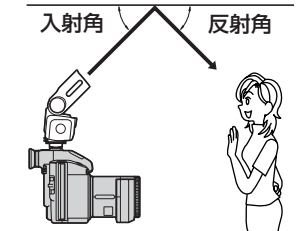


バウンス撮影

被写体の背後に壁などがあるときに、発光部を白い天井や壁に向けて発光し、反射光によって被写体を照明します。反射光が広い範囲に回り込んで被写体を照らすので、被写体や壁に出る影をおさえたソフトな画像にすることができます。



- 1 反射面での入射角と反射角が等しくなるように発光部の角度を決める。撮影距離は、発光部から反射面と、反射面から被写体までの合計距離になります。



- 2 デジタルスチルカメラのシャッターボタンを押す。

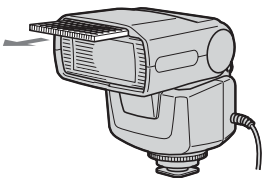
ご注意

- バウンス角度が小さいと、反射光に加え、直接光が被写体に当たり照明ムラの原因となります。
- 反射面は白に近く、反射率の高いものを選んでください。反射面が白以外のときは正しい発色が得られません。また、反射率が低いと有効距離が短くなります。

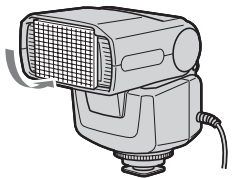
ワイドパネルのセット方法

ワイドコンバージョンレンズをご使用の場合、ワイドパネルをお使いください。ワイドパネルはフラッシュの照射角度を広くします。(ワイドパネルをセットすると最大光量が低下します。)

- 1 ワイドパネルをゆっくり引き出す。



- 2 発光部側に倒し、カチッと音がするまで軽く押す。



ワイドパネルを戻すには、逆の手順で行います。

ワイドパネルが本機からはずれてしまった時の復帰方法

- 1 ワイドパネル凸凹面を上にして回転軸を穴に差しこむ。
- 2 ワイドパネルを押しこむ。

